

道徳年間指導計画 第1学年

重点目標

	内容項目	[主題名] 教材名 (出典)	主題構成の理由	※ねらい ○発問 ◎中心発問	他の教育活動等との関連	「わたしたちの道徳」 「高知の道徳」 との関連	地域・家庭との連携	評価・振り返り
四月 (第二週)	礼儀	[あかるいあいさつ] 1. あかるいあいさつ (みんなのどうとく)	よい人間関係を築くには、まず、気持ちのよい対応ができればならない。1年生のこの時期に「おはようございます」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」等の挨拶や、言葉づかい・動作等の具体的な指導を通して、誰にでも明るく接することができる児童を育てたい。	※気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。 ○この絵は、どんなことをしている絵でしょう。どんなことに気がつくしましたか。 ◎先生が演じた「よいあいさつ」と「悪い挨拶」を見て、どう思いましたか。 ○隣の人と気持ちのよい挨拶をし、「挨拶リレー」の練習をする。 ○「挨拶リレー」のゲームをする。	生活目標 「あいさつをしよう」 国語科 「なんていおうかな」 生活 「わくわく 大好き葉山」 学級会 「元氣なあいさつ」	〈導入〉 P.54の挨拶を参照する。	遠足	教材（ ）
四月 (第三週)	よりよい学校生活、集団生活の充実	[がっこうだいすき] 2. たのしいがっこう (みんなのどうとく)	入学当初の児童は、期待と不安でいっぱいである。学校は、学習をしたり、先生や友達などと関わり合ったりする場であることに気付かせ、児童の不安を取り除くとともに、期待を膨らませたい。また、毎日の学習の中でたくさんの学びがあることも知り、さらによりよい自分、より楽しい毎日にしていこうとする態度を育てたい。	※学校生活の楽しさを感じるとともに、ルールを守り、進んで活動することでより楽しい生活にしようとする態度を育てる。 ○（それぞれの場面絵を見ながら）何をしているところでしょうか。また、どんな気持ちでしょうか。 ◎この絵のお友だちがしていることで「いなか」ということを見つけてみましょう。	「入学式、始業式」 生活科 「がっこうだいすき」 「1年生を迎える会」 「参観日」		入学式 参観日	
五月 (第一週)	規則尊重	[みんながにこにこ] 3. みんなのこうえん (みんなのどうとく)	みんなが気持ちよく生活する為に、きまりや規則を守ることが欠かせない。規範意識の低下が社会問題となっている今日、単に決まりや規則を守ることが求めるだけでは不十分である。「きまりや規則」を人と関わる上で重要な役割を果たすものと捉えさせ、様々な規範を身につけようとする気持ちを育てていきたい。	※みんなが使う公共の場で、すべての人が気持ちよく活動できるように約束やきまりを守ろうとする態度を育てる。 ○絵を見て気がついたこと、思ったことをお話ししよう。 ◎この公園でみんなが楽しくにこにこして過ごすようにするためには、どうしたらよいでしょうか。	生活目標 「学校のきまりをまもろう」 生活科 「がっこうだいすき」 「交通安全教室」 「避難訓練」		交通安全教室 保護者の参観	

五月 (第二週)	親切、思いやり	[しんせつになったおおかみ] 4. はしの上のおおかみ (わたしたちの道徳)	くまと出会ったおおかみの心の変化から、困っている人に温かい心で接したり、親切にしたりしようとする心を育てたい。	※おおかみの行動や心の変容を考えることを通して、親切にすることが相手にとっても自分にとっても気持ちのよいことであることに気づき、身近な人に温かい心で接しようとする態度を育てる。 ○自分より小さいうさぎ、きつね、たぬきを追い返した時、おおかみはどんなことを考えていたでしょう。 ○自分より大きいくまを見た時、おおかみはどんな気持ちだったでしょう。 ◎くまの後ろ姿をいつまでも見ながら、おおかみはどんなことを考えていたでしょう。	「遠足」	P. 70～73 を読む。		教材 ()
五月 (第三週)	よりよい学校生活、集団生活の充実	[たのしいがっきゅうに] 5. めだかのめぐ (みんなのどうとく)	児童は学級での楽しい生活を通して、学校に愛着を感じるようになる。学級で、児童と教師、児童相互で温かい人間関係つくることができれば、児童はのびのびと自分の力を十分に発揮することができる。自分の役割と責任を自覚して、よりよい学級をつくらうとする児童を育てたい。	※めぐの心の変容を考えることを通して、先生や学級の友達に親しみ、学級の生活を楽しくしようとする気持ちを育てる。 ○たがめにしっぽを切られためぐはどんな気持ちだったでしょう。 ○めぐは、どうして毎朝、一番に学校に出かけ教室の黒板消しをきれいにしていたのでしょうか。 ◎先生や友達に拍手をしてもらっためぐはどんなことを考えたでしょう。	生活科 「がっこうだいすき」 「遠足」		保護者の参画 中学生参画	教材 ()
五月 (第四週)	生命の尊さ	[いのちをまもりそだてる] 6. ハムスターの赤ちゃん (わたしたちの道徳)	人は誰でも誕生したばかりの小さな生命を大切に育てよう、守っていこうとする気持ちを持っている。それは人間ばかりではなく、すべての生き物が持っておりそのことに気づくことで感動が生まれ、生命のかけがえのなさを改めて知り、大切に育てようとする児童を育てたい。	※赤ちゃんのハムスターの成長の様子を通して、生きていることのすばらしさに気づき、生命を大切にしようとする態度を育てる。 ○ハムスターのお母さんが、強い歯なのにそっと噛んでいるのは、どうしてでしょう。 ◎十日間でこんなに大きくなった赤ちゃんにどんなことを言ってあげたいですか。	生活科 「きれいにさいてね」 「交通安全教室」 「避難訓練」	<導入> P. 90 を活用する。 P. 96～99 を読む。	保護者・地域の方の参画	教材 ()

六月 (第一週)	友情、 信頼	[友達と仲良く助け合う] 7. およげないりすさん (わたしたちの道徳)	白鳥たちの気持ちを考えると同時に、一人ぼっちになったりすの気持ちについても考えさせるようにしたい。そうすることで友だちの気持ちを考え、仲良くすることが、望ましい友だち関係を築く上で大切であるということに気付かせたい。	*かめさんの親切な行為を通して、友だちの気持ちを考え、誰とでも仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。 ○かめさんたちが島で遊んでも、少しも楽しくないのは、どうしてでしょう。 ○「りすさん、りすさん、ぼくの背中に乗りなさいよ。」とかめさんに言われた時、りすさんは、どんな気持ちだったでしょう。 ◎りすさんを連れていったみんなは、どんな気持ちだったでしょう。	音楽 「リズムとなかよし」 図工 「いろいろなかたちのかみから」 体育 「どうぶつランド」 プール開き	P. 78～81 を読む。 <終末> P. 74、75 を活用する。	保護者・地域の方の参画 プール開き	教材 ()
六月 (第二週)	国際理解、 国際親善	[ほかの国のことを知ろう] 8. せかいの「こんにちは」「ありがとう」 (わたしたちの道徳)	この時期の児童は、クリスマスやハロウィンを楽しんだりサッカーやバスケットなどのスポーツをしたりと他国の文化に触れる機会も多いものの、それがどの国のものなのかは、あまり分かっていない。そこで、身近にある他国の文化に目を向けさせるとともに、その国について親しみをもったりそのよさに気付いたりできるようにしたい。また、身近な挨拶を知ることによって他国の文化へ親しみをもたせていきたい。	※いろいろな国の「ありがとう」や「こんにちは」を知ることを通して、他国のあいさつの仕方について知り、他国の文化に親しみをもとうとする心情を育てる。 ○日本には、どんなあいさつがありますか。また、どんなふうに言いますか。 ◎それぞれのあいさつの仕方について、思ったことを発表しましょう。	英会話	P. 64、65、173	ALTの方に自国の文化について話してもらおう。 保護者・地域の方の参画	教材 ()
六月 (第三週)	節度、 節制	[わがままなきもち] 9. かぼちゃのつる (みんなのどうとく)	注意されても自分の思いのままにつるを伸ばしていったかぼちゃの気持ちを考えることにより、人の忠告を聞くことの大切さに気付くようにしていきたい。	※わがままなかぼちゃの行為を考えることを通して、周りの人の注意を素直に聞き、わがままや自分勝手は行動を慎もうとする心情を育てる。 ○つるをぐんぐん伸ばしている時、かぼちゃはどんな気持ちだったでしょう。 ○はち、ちょう、すいか、こいぬから注意された時、かぼちゃはどんなことを思ったでしょう。 ◎トラックにつるを切られた時、かぼちゃはどんなことを考えたでしょう。	学級会 「はをたいせつにしよう」		保護者・地域の方の参画	教材 ()

六月 (第四週)	友情、 信頼	[友達の気持ちになって] 10. あめふり (きみがいちばんひかるとき)	役割演技などを使って、ふみを君の言動を考えることで、だれでも困っている友達にはやさしくしたり助け合おうとする気持ちが大切なことに気がつくようにする。	※相手の気持ちを考え行動するのり子の姿から友達の立場に立って考え、仲よく助け合おうとする心情を育てる。 ○ふみくんは、二人に「いれて」と言われた時、どんな気持ちだったでしょう。 ○「えっ、私だけ・・・。じゃいいわ。さようなら。」と言った時、のり子ちゃんは、どんな気持ちだったでしょう。 ◎ふみおくんは、ひろみちゃんを追いかけていくのり子ちゃんを見て、どんなことを考えたでしょう。	図工 「ひもひもねんど」		保護者・地域の方の参画	教材（ ）
七月 (第一週)	希望と勇氣 努力と強い意志	[がんばる心] 11. うかんだ うかんだ (みんななかよく)	努力することはつらく苦しいことだが、目標をもち、それに向かって励むことで日々の生活が充実したものとなる。目標を持ってがんばることが大切だと気づき一生懸命努力しようとする意欲を育てていきたい。	※苦手なことも一生懸命頑張ろうとする「ぼく」の姿を通し、自分の目標に向かって、一生懸命努力しようとする意欲を育てる。 ○プールの時間、こわくて、首までしか入れない時、どんな気持ちだったでしょう。 ○洗面器やお風呂で練習している時、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。 ◎プールで体が浮かんだ時、「ぼく」は、どんな気持ちだったでしょう。	国語 「はをへをつかおう」 体育 「みずあそび」 学級会 「1学期のまとめをしよう」 「夏休みのくらし」	〈終末〉 P. 24 の作文を読む。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）
七月 (第二週)	自然愛護	[植物を育てる] 12. ぼくのあさがお (みんななかよく)	世話を忘れてしまったためにしおれたあさがおと大事に世話をしてつぼみをつけたあさがおを見たときの気持ちを対比して考え、動植物を世話しているときの気持ちに共感できるようにする。	※水やりを忘れ、元気がなくなっているあさがおを心配している「ぼく」の姿から、自然に親しみ、動物や植物を優しい心で世話しようとする心情を育てる。 ○しおれたあさがおを見て、「ぼく」の気持ちは、どんなだったでしょう。 ○ぼくは、何回もあさがおに「ごめんね。」と言った時、どんな気持ちでしたか。 ◎小さなつぼみを見つけた時、「ぼく」はどんなことをあさがおに話したのでしょうか。	生活科 「きれいにさいてね」		保護者・地域の方の参画	教材（ ）
九月 (第一週)	節度、 節制	[きそく正しく気持ちのよい毎日] 13. るっぺどうしたの (わたしたちの道徳)	役割演技を通して、わがままで自分勝手な行動が及ぼす周りへの迷惑について話し合わせ、自分勝手な行動が周りに大きな迷惑をかけていることを考えさせる。	※自分勝手なるっぺの行動を考えることで、健康に気をつけ、わがまをしないで、規則正しい生活をする大切さに気づき健康や安全に気をつけて生活しようとする態度を養う。 ○何度もお母さんに「起きなさい。」と注意されても起きないるっぺのことをどう思いますか。 ○「だってえ。」と言って、靴をきちんとはかず、ランドセルの中身がとび出したるっぺのことをどう思いますか。 ◎みんなに「るっぺくん、やめて」と言われてもやめようとしないうるっぺのことをどう		P. 16～21 を読む。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）

				思いますか。				
九月 (第二週)	親切、思いやり	[小さな親切] 14. ぼくにできること (1ねんせいのどうとく)	進んでおばあさんの手伝いをし、喜んでもらった「ぼく」の気持ちに共感させ、相手のことを考えて親切にすることの大切さについて考えるようにする。	※おばあさんに親切にしている「ぼく」の姿を通して、身近にいる若い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。 ○お母さんがおばあさんを手伝ってあげている時、ぼくは、どんなことを考えていたでしょう。 ○ぼくは、どんな気持ちでおばあさんを手伝っていたのでしょうか。 ◎おばあさんにうれしそうにお礼言われた時、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。	算数 「どちらがながい」 音楽 「どれみとなかよし」 「ふれあい参観日」 「運動」	<終末> P. 66、67 を活用する。	ふれあい参観日 運動会 保護者・地域の方の参画	教材 ()
九月 (第三週)	希望と勇氣 努力と強い意志	[何度も粘り強く] 15. こぐまのラッパ (みんななかよく)	自分で行おうと決めたことを最後までねばり強く努力し行うことは、児童が自立していく上で大切である。自らの能力を見極め、実行可能かどうか結果を推測することも、ある意味では大事だが、何事にも勤勉にくじけず努力し、自分を絶えず向上させようとする姿勢こそ尊いものであることを自覚できるようにしたい。	*最後まで一生懸命練習を続けるこぐまの姿を通して、自分がやらなければならないことは、最後までしっかりやろうとする態度を育てる。 ○夜まで練習しても、なかなかラッパが吹けないこぐまは、どんな気持ちだったでしょう。 ○何度も何度も練習を続けているこぐまは、どんな気持ちだったでしょう。 ◎鳴り止まない大きな拍手を聞きながら、こぐまは、どんなことを考えていたでしょう。	国語 「ひらがなあつまれ」 「かたかなをみつけよう」 算数 「3つのかずのけいさん」 生活目標 「運動会の練習をがんばろう」 「音楽会」		運動会 音楽会 学級活動で「わたしたちの道徳」を記入した後、P. 24 に家庭で記入してもらう。 保護者・地域の方の参画	教材 ()
十月 (第一週)	善悪の判断、自律、自由と責任	[よいと思うことはすすんで] 16. ぼんたとかんた (わたしたちの道徳)	仲良しのかんたに誘われ、裏山で遊んではいけないと分かっているけどどうすればよいかわど悩むぼんたの気持ちに共感させ、(人間理解)その後、勇氣を出してはっきり伝えた時のすがすがしい気持ちに共感できるようにする。	※勇氣を出して行動したすがすがしいぼんたの気持ちに共感し、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。 ○かんたと遊ぶ約束をしたぼんたは、どんな気持ちだったでしょう。 ○ぼんたは、どのような気持ちで「ぼくは、行かない」と言ったのでしょうか。 ◎かんたとぶらんこにゆられながら、ぼんたはどんな気持ちだったでしょう。		P38～41 を読む <終末> P. 42、43 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
十月 (第二週)	感動、畏敬の念	[うつしいものをかんじる心] 17. へんしん (みんなのどうとく)	自然の美しさ感動したり、物語等に夢を託し、美しいものや清らかなものを感じたりする心情を育てたい。	※葉っぱが紅葉していく様子を通して、美しいものや不思議なものにふれ、感動する心情を育てる。 ○「ぼく」は、散歩をした時、いちようや秋の葉を見てどんな気持ちになりましたか。 ◎「ぼく」は、なぜへんしんするものをもっと探そうと思ったのだろう。	生活科 「たのしいあきいっぱい」	<終末> P110～112 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()

十月 (第三週)	感謝	[感謝] 18. ピーマンいただきます (ふるさとの志)	良い人間関係を築いていくためには、身近で日頃世話になっている人々の存在に気づきその人々の善意について考えると共に、その時に自分が感じた感謝の念について改めて考え、それを具体的な言葉や行動に表わしていくことが大切である。そこで、自分の周りには、いろいろな人がいることに気づき多くの人にお世話になっていることに感謝する気持ちをもたせたい。	※ゆきこさんたちのために、一生懸命ピーマンを作ってくれているおじさんの姿を通して、日々の生活が様々な人々に支えられていることに気づき、世話になっている人々に感謝する心情を育てる。	生活科 「いきものなかよし」		収穫祭 ゲストティーチャーの話を聞く。 保護者・地域の方の参画 授業後、家庭で、「高知の道徳」をお家の方に読んでもらい、授業を振り返る。	教材（ ）
				○おじさんの顔から落ちる汗をじっと見つめながら、ゆきこさんはどんなことを考えていたでしょう。 ◎いつもより大きな声で「いただきます」といったゆきこさんは、おじさんにどんなことを伝えたかったのでしょうか。				
十月 (第四週)	規則の尊重	[電車の中で] 19. おじさんの手紙 (みんなのどうとく)	公共の場所には、それぞれ利用する上でのマナーやルールがある。それを守ることで、他人に、不利益、負担、不快感などを感じさせないよう心がけることが大切である。そのことが、不特定多数の人を思いやることにつながることに気づき、規則を守ろうとする態度を育てたい。	※おじさんにマナーについてほめてもらったことで、公共の場所でのマナーを守ることの大切さを知り、きまりを守ろうとする態度を養う。	「音楽会」 「避難訓練」	〈終末〉 P. 118、119 を活用する。	図書館見学 保護者・地域の方の参画	教材（ ）
				○おじさんはみんなが電車に乗ってきた時、どんな気持ちだったでしょう。 ◎おじさんがゆかいな気持ちになったのはどうしてでしょう。				
十一月 (第一週)	正直、誠実	[本当のこと] 20. おいもほり (みんなのどうとく)	低学年においてうそは、その大半がその場しのぎに言ってしまうものであるが、衝動的であるがゆえに、嘘に対する罪の意識も希薄になりがちである。そこで、たとえばなくても嘘やごまかしが自分を嫌な気持ちにさせることに気づかせ、嘘やごまかしをした後でも、本当のことを言おうとする気持ちを育てていきたい。	*うそをついてしまい、困っているひろくんの姿から、うそをついたりごまかししたりすると、後で嫌な思いをすることを理解し、嘘やごまかしをした後でも、本当のことを言おうとする気持ちを育てる。		<終末> P44、45 を活用する。 のびのびと明るい気持ちで過ごせた日には、P. 46 の風船をぬるようにする。 (期間を決めて行う)	保護者・地域の方の参画 記入した「わたしたちの道徳」を家庭に持ち帰り、お家の人にメッセージを書いてもらう。	教材（ ）
				○みんなが、「ひろくんのおいも、大きいねえ。」とほめてくれた時、ひろくんは、何も言えなかったのは、どうしてでしょう。 ◎ひろくんの手の上のおいもが、にっこりしているように見えた時、ひろくんは、どんなことを考えたでしょう。				

十一月 (第二週)	公平、公正、社会主義	[みんなとなかよく] 21. コラム「あなたがうさぎさんだったら、どうするでしょう。」 (わたしたちの道徳)	子どもたちの多くは、差別や偏見がよくないことは知識として知っているが、友だちの個性や特性をからかいの対象にしたり、軽はずみな言動で友達を傷つけたりすることもある。自分の好みによる偏った人間関係づくりを避け、好き嫌いとらわれない人間関係づくりの素地を育むようにしたい。	※どうすればよいか悩んでいるうさぎさんの気持ちを考えることを通して、自分の好き嫌いとらわれないで誰に対しても公平に接しようとする態度を育てる。 ○おさるさんが仲間外れにされていると知った時、うさぎさんは、どんな気持ちになったでしょう。 ◎聞こえないふりをしてライオンさんのところに言っとうさぎさんは、どんなことを考えていたでしょう。	収穫祭	P. 168、169 のコラムを活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
十一月 (第三週)	感謝	[ありがとうっていいな] 22. ぼくの 気持ち (みんなのどうとく)	人は支え合って生きているから、よりよい人間関係を築くことが、自他の幸福のために必要となる。そして、よりよい人間関係の根底には、必ず相手に対する尊敬や感謝の念を忘れがちである。だからこそ、児童に自分を支えてくれる存在に気づかせ、感謝の心を育てることが大切になる。	※いつも身近で支えてくれている人の存在に気づき、それらの人々に感謝する気持ちを具体的な形や行動に表そうとする心情を育てる。 ○転んできがをした時、そめやさんが真っ先に来てくれた時、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。 ◎「ぼく」が「そめやさん、おはようございます」と大きな声で言った時、どんなことを言いたかったでしょう。	「収穫祭」	<終末> 「高知の道徳」 P. 46 を活用する。	収穫祭 保護者・地域の方の参画	教材 ()
十一月 (第四週)	礼儀	[ここをつなぐあいさつ] 23. かめさんありがとう (みんなのどうとく)	挨拶は基本的な生活習慣の第一歩である。良い人間関係を築くためにも、気持ちよい対応をすることは大切である。人と人とのふれあいが希薄になっているといわれる現代、挨拶は、人と人をつなぐ大切なコミュニケーションツールである。低学年のうちに、気持ちの良い挨拶を習慣化させたい。	※りすさんに挨拶をしてもらったかめさんの気持ちを考えることを通して、いつでも気持ちのよい挨拶や言葉づかいに心がけようする心情を育てる。 ○だまって行ってしまったたぬきさんを見てかめさんはどう思ったでしょう。 ○りすさんに「僕も乗せて」と言われた時、かめはどんなことを思ったでしょう。 ◎りすさんは、かめさんに何といったでしょう。りすさんになって考えましょう。			保護者・地域の方の参画	教材 ()
十二月 (第一週)	個性の伸長	[よいところを見つけたよ] 24. コラム「よいところを見つけたよ」 (わたしたちの道徳)	この時期の児童は、自分自身を客観視することができないことが多い。そこで、友だちにいいところを褒めてもらうことで、自分のよさに気づきさらにそのよさを伸ばしていこうとする心を育てていきたい。	※自分のよさを知り、伸ばしていこうとする心情を育てる。 ○友達のよいところや素敵だなと思うところを考え、友達の「私たちの道徳」に書いてあげましょう。 ◎友達によいところを書いてもらってどんなことを考えましたか。		P. 158～161 のコラムを活用する。	保護者・地域の方の参画 「わたしたちの道徳」を持ち帰り、P. 159 にメッセージを書いてもらう。	教材 ()

十二月 (第二週)	節度、節制	[じぶんのちからで] 25. しまのおさるたち (みんなのどうとく)	望ましい集団生活を営むためには、その集団に属する一人一人が自立的な人間でなければならない。最近の社会の風潮として自分でやらなければならないこと、自分でできることを他に依存する傾向が見受けられる。児童に自立心を養わせ自主的な心を育てていきたい。	※だいきちぎるの行動から、他人に頼らず、自分でできることは自分でやることの大切さに気づかせ、自立する態度を育てる。 ○だいきちぎるになんでもとってもらってしまのさるたちは、どんな気持ちだったでしょう。 ○食べ物がなくなった時、さるたちは、どんなことを考えたでしょう。 ◎しまのさるたちは、歩きながらどんなことを考えていたでしょう。		<終末> P. 20、21 を活用する。	保護者・地域 の方の参画	教材 ()
十二月 (第三週)	家族愛、家庭生活の充実	[大すきな家族] 26. サンドイッチだね (きみがいちばんひかるとき)	おじいちゃんとおばあちゃんといっしょで、嬉しくて、眠れない「ぼく」の気持ちに共感させることで、祖父母や両親の愛情に気づくとともに、積極的に交わろうとする態度を育てるようにする。	※おじいちゃんやおばあちゃんの愛情をいっぱい感じうれしくて眠れないぼくの気持ちに共感させることで、祖父母や両親に対して敬愛の気持ちをもち、家族と交わろうとする態度を育てる。 ○「ぼく」がうれしくて、なかなか眠れなくなったのは、どうしてでしょう。 ○「ぼく」はおじいちゃんとおばあちゃんにどんなことを話してあげたでしょう。 ◎「ぼく」の話を聞きながら、おじいちゃんとおばあちゃんは、どんなことを思ったでしょう。	生活科 「じぶんでできるよ」		保護者・地域 の方の参画	教材 ()
一月 (第二週)	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	[町を守る] 27. ひのようじん (1ねんせいのどうとく)	自分たちの町を守るために、働いている人々がいることに気づき、自分たちの住む町を大切にしていこうとする心情を育てるようにする。	※お父さんと一緒に夜回りをするすることで、地域の役に立とうとがんばる「ぼく」の姿を通して、自分の住む地域の行事に触れ、地域に愛着をもとうとする心情を育てる。 ○夜回りに出発するお父さんを見た時、どんな気持ちがしたでしょう。 ○大人たちの話を聞いて、さっきよりも大きな声で「火の用心」と言っているぼくは、どんな気持ちでしょう。 ◎家に帰ってお父さんが「二人で地域のお役に立ってきたよ。」と言いながら、頭をなでてくれた時、ぼくは、どんなことを考えたでしょう。			地域の消防団の方にゲストティーチャーとして終末で「自分たちの大切な地域を守っていること」などについて話してもらう。 保護者・地域 の方の参画	教材 ()

一月 (第三週)	善悪の判断 自律、自由と責任	[ゆうきをだして] 28. ろくちゃん (みんなのどうとく)	集団生活にまだ慣れていない低学年の児童にとっては、ものおじしたりして、正しいことが言えなかったりすることが少なくない。生活する中で良いことや遠慮しないで、勇気をもって行うことができる児童を育てていきたい。	※「ぼく」の変容を通して、生活の中でよいことや正しいと思ったことは、おそれずに進んで行おうとする態度を養う。 ○かよちゃんとぶつかって走って行ったらろくちゃんを見て、ぼくはどう思ったのでしょうか。 ◎「今度から気をつけるね。」と言って手を振ってくれたろくちゃんを見て、ぼくはどんなことを考えたでしょうか。		<終末> P. 32 を活用する	保護者・地域の方の参画	教材 ()
一月 (第四週)	希望と勇氣 努力と強い意志	[きめたことはさいごまで] 29. りょうくんと ーりん車 (みんなのどうとく)	児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことを、やり抜くことが大切である。それには、何事にも、最後までねばり強く取り組み、努力し続ける忍耐力も必要である。低学年では、自分で決めたこと最後までやりとげることが出来るようにするとともに、達成感を味わせて、頑張れた自分に気付かせたい。	※りょうくんのがんばる姿を通して、自分が立てた目標の実現に向けて、あきらめずにがんばることの大切さに気づき、あきらめずにやりとげる気持ちを育てる。 ○りょう君はどうして一輪車の練習を始めたのでしょうか。 ○転んであざだらけのりょう君は、どんな気持ちになったでしょう。 ◎気持ちよくペダルをこいでいるりょう君はどんな気持ちだったでしょう。	生活科 「じぶんでできるよ」 算数 「20 よい大きいかず」 体育 「なわとびあそび」	<終末> P. 22 を活用する	保護者・地域の方の参画	教材 ()
二月 (第一週)	礼儀	[気持ちのよいあいさつ] 30. たびに出て (わたしたちの道徳)	挨拶の大切さに気づいた主人公に共感しながら、自分の生活を振り返り、礼儀の大切さについて考え、気持ちのよい挨拶や言葉遣いに心掛け、明るく接しようとする態度を育てていきたい。	※あいさつじままでのけいたの変容を通して、自分も相手も気持ちよく過ごすためには、挨拶や言葉づかいが大切であるということに気づき、気持ちのよい挨拶や言葉遣いに気を付け明るく接しようとする態度を育てる。 ○木の上で「あいさつじま」のことを思い出してけいたはどんなことを考えていたでしょう。 ◎「あいさつのないしま」に元気な挨拶があふれだした時、けいたは、どんなことを考えたでしょう。		P. 60～63 を読む。	<終末> お家の方からのあいさつについてのメッセージを紹介する。(「わたしたちの道徳」P. 56) 保護者・地域の方の参画	教材 ()
二月 (第二週)	親切、思いやり	[思いやりの心] 31. ぼくのはなさいたけど (みんななかよく)	身近な人々との触れ合いの中で、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにしていくことが大切である。思いやりの心をもち続け、親切にすることができるようにするためにも、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにしていくことが重要である。トトの温かい思いやりの気持ちに共感し相手を思いやる心情を育てていきたい。	※トトがモイラを思う気持ちを通して、身近な人たちに温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする心情を育てる。 ○トトは、どんな気持ちで毎日、お花に水をあげていたのでしょうか。 ○モイラの顔が浮かんできた時、トトは、どんなことを考えたのでしょうか。 ◎「二人のお母さんが喜んだんですもの」とお母さんに言ってもらって、トトは、どんなことを考えたでしょう。			保護者・地域の方の参画	教材 ()

二月 (第三週)	勤労、公共の精神	[はたらくことの楽しさ] 32. ケイクんのたくはいびん (みんなのどうとく)	働くことで他の人の役に立つ喜びや、やりがい、自分の成長を感じることはとても大切である。働くことの意義や役割を理解し、それを現在の自分が学んでいることとのつながりで捉えることは、将来の社会的自立に向けて、勤労観や職業観を育む上でも重要である。働くことのよさを感じ意欲的にみんなのために働こうとする意欲を育てていきたい。	※ケイクんの一生懸命働く姿を通して、他の人に役に立つ喜びや働くことのよさを感じ頑張っていることを理解させ勤労意欲を育てる。 ○ケイクんは仕事がない時、どんな気持ちで待っていたでしょう。 ○ケイクんは坂道を登っていく時、どんな気持ちだったでしょう。 ◎ケイクんは、おじさんとおばさんの顔を見た時、どんな気持ちになったでしょう。	生活目標 「自分の係の仕事をがんばろう」	<終末> P. 130～131	保護者・地域の方の参画	教材（ ）
三月 (第一週)	友情、信頼	[ともだちだから] 33. 二わのことり (みんなのどうとく)	性格や能力は人それぞれに違っているが、相手の立場に立って考えるとところから信頼が生まれ友情が育ってくる。そして、相手を思いやり友達が大事にしようという気持ちが育ってくる。みそさざいの気持ちに共感しながら、友達のことを考えて行動できる児童を育てていきたい。	※やまがらのことを考えて行動したみそさざいの気持ちを考えることを通して、友達のことを考えて行動しようとする心情を育てる。 ○みそさざいがうぐいすの家にとんで行ったのは、なぜでしょう。 ○みそさざいがうぐいすのうちをそっと抜け出したのは、どんなことを考えたからでしょう。 ◎目に涙を浮かべて喜んでいるやまがらを見て、みそさざいはどんなことを考えたでしょう。みそさざえになって、お話ししよう。		<終末> P. 74、75 の言葉に児童の写真を入れて、電子黒板に映す。	雪遊び 昔遊び 6年生を送る会 保護者・地域の方の参画 「わたしたちの道徳」P. 76に記入したものを持ち帰り、記入してもらう。	教材（ ）
三月 (第二週)	感謝	[ありがとうのきもちをもって] 34. ありがとう、六年生 (みんなのどうとく)	人間は、生まれたときから多くの人々に助けられ、恩恵を受けながら生きている。様々な人々のおかげで、自分たちの生活が成り立っていると認識した時、尊敬や感謝の気持ちが生まれるのである。身近な人々に目を向けさせ、感謝の気持ちを育てていきたい。	※お世話になった六年生のことを思うかなえさんの気持ちを考えることで、お世話になっている人に感謝する気持ちを育てる。 ○あつこさんに手紙を書いている時、かなえさんはどんな気持ちだったでしょう。 ◎みんなは、6年生にどんなことをお手紙に書きたいと思いますか。	図画 「心をこめてプレゼント」 「6年生を送る会」 「卒業式」	<終末> P. 82 を活用にする。	卒業式 保護者・地域の方の参画	教材（ ）